

「家政学」が、その発生時点において、また成立過程において、「学校教育における教科目」及び「女子教育」、「婦人教育」など、いわゆる「教育」(広義)との関係を有形無形に持つことは、多くの資料の示すところであり、これはまたわが国だけの問題でもない。「科学としての家政学」探求の一助として、この面からのアプローチにより、相互間の関連性と類別性を明確にすることは、今日的にも重要だと考える。

本発表は、その考察の一部、総括概要的部分を(第1報)として行なう。

2. 関係諸文献諸資料の分析考察による。

3. 筆者自身の研究としては、既発表、家庭生活の本質、特質に関する諸報告(第1～第7報)、及び家庭生活構造に関する考察(第1,第2,第3報)(生活設計—その家政学的解明)などに、本質的に続くものである。今時は、I. 「科学としての家政学」の概念、II. 学校教育における教科目との関連において、III. 社会教育(広義)における成人教育、生涯教育との関連において、を中心として発表する。

F-21 家政学(広義)と教育(広義)との関係(第1報) —科学としての家政学探求のために—

福岡教育大 平田 昌

1. 「科学としての家政学確立」のための探求が叫ばれて久しい。先賢諸氏多大の努力により、日日充実しつつあるとはいえ、今日まだ多くの問題を残すことも事実である。その一つに、「科学としての家政学」と「教育」としてのそれとの概念的、内容的、現象的混乱が、あげられる。